

そらこめ通信

No.78 2017年1月号

このたびは弊社の米をお買い上げ頂き誠にありがとうございます。日頃よりご愛顧頂いております皆様にはこの場をお借りして厚くお礼を申し上げます。

平成29年が明けました。旧年中は大変お世話になり、ありがとうございました。本年もどうぞよろしくお願ひ申し上げます。

今年の干支は、丁酉(ひのと)です。干支は、甲、乙、丙、丁など10種の十干(じっかん)と、子、丑、寅、卯など12種の十二支(じゅうにし)の組み合わせから成り立っていて、1年ずつ甲子、乙丑、丙寅、丁卯・・・という具合に進んでいき、最小公倍数である60年で全ての組み合わせを完結する仕組みです。つまり、61年目に最初の組み合わせ(誕生した年の組み合わせ)に戻るわけです。61年目というのは、満年齢で60才を迎える年のことで、世間ではこれを還暦といいます。ちなみに、高校野球のメッカである甲子園は、甲子の年に建てられたので甲子園(寅年ではない)。歴史に出てくる「壬申の乱」「戊辰戦争」なんかも壬申、戊辰の年に勃発したということでは付けたのだとか。昔から人々は干支に関心を持って生活していたのですね(笑)。俗に、酉年は「商売繁盛につながる」あるいは「物事の頂点を極める」年になるといわれますが、株式相場などの世界では申酉「騒ぐ」と言ってあまり良い意味では使われません。今年は、トランプ氏がアメリカ大統領に就任する年です。昨年(申年)の大統領選挙での当選から今年(酉年)にかけて、世界中にトランプ旋風が吹き荒れる予感がして正直怖いです。

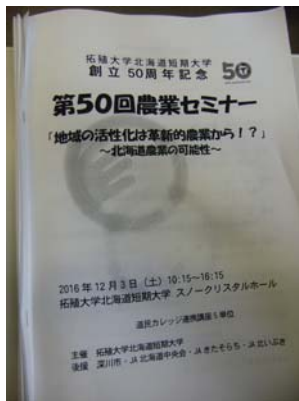
昨年の12月3日、拓殖大学北海道短期大学(深川市)で開催された「第50回農業セミナー」に一般聴講者として参加させて頂きました。今の農業界をリードしている様々な人たちが講師として登場するこのセミナー。興味深い話が聞けるため、ここ数年続けて参加しております。このセミナーは、将来農業を生業とする学生たちも共に受講する名物セミナーです。これからの農業界を担う学生たちにとって、先達たちの話は何よりの滋養になると思います。



拓殖大学北海道短期大学の中央玄関



セミナー開催にあたり篠塚学長の挨拶



12月3日(土)拓殖大学北海道短期大学において第50回農業セミナーが開催されました。上記はセミナーのレジュメです。拓殖大学では、大学創立以来毎年この農業セミナーを開催しています。



講演のトップバッターは西元哲生氏



竹中秀行氏による基調講演



講義に聞き入る一般聴講者たち



昼食風景～食材は大学で生産された農産物



午後の部～門脇武一氏の講演



水留良氏による講演



干場法美氏の講演



パネルディスカッションで挨拶する岡崎教授



パネラーに質問する学生



学生の質問に答えるパネラー(水留氏)



正月飾りが施された神棚(H29年1月2日)



本社の事務室(左)と精米プラント並びに大型冷蔵庫(中)(1月2日)



本社全景(1月2日)

拓殖大学北海道短期大学で、大学創立以来毎年開催されている農業セミナーが50周年を迎えました。今回のテーマは「地域の活性化は革新的農業から！～北海道農業の可能性～」です。現在の農業経営の最先端を走っている講師達から現場の生の声を聞く機会を得ることは、学生たちにとってとても大切なこと。それは一般聴講者にとっても同じです。ひとえに農業技術の発展のため、こうして外部にも広く門戸を開いているこの大学の懐の深さを感じた一日でした。

インターネットで美味しいお米!

(株)空知こめ工房 ホームページ
<http://www.sorachi-kome.jp/>
 ブログ「生産日誌」更新中です